

第5章 各教科

第1節 国 語

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

国語科の目標を踏まえて作成する。(解P11)

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 指導計画作成の一般的な手順

指導計画の作成に当たっては、各学校の実態に即した手順を考えることが大切である。ここでは、一般的な事前の準備及び作成の手順を示す。

- 1 指導計画作成の基本方針を明らかにし、組織、日程を決める。
- 2 指導計画作成のための事前の研究や調査をする。(「全国学力・学習状況調査」「埼玉県学力・学習状況調査」などの調査結果を踏まえること。)
- 3 指導計画作成の基本となる事項を決める。
- 4 学習指導要領の国語科の目標及び内容、埼玉県教育委員会「指導の重点・努力点」の内容、各学年の実態や児童の発達の段階等を踏まえ、学校としての重点指導事項、各学年における重点指導事項を決定し、指導の系統表を作成する。
- 5 各領域の配当時数や内容配分に留意し、教科書との関連を図りながら、単元の数、種類、指導時数を決める。
- 6 単元の目標や指導の重点、既習事項との関連や評価規準を明確にし、適切な話題・題材の選定、効果的な言語活動の組織化などに配慮した上で単元を構成する。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点(解P159)

個々の児童によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の児童の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫すること。その際、国語科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、児童の学習負担や心理面にも配慮する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点(解P153、P154)

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。

これまでの実践を踏まえ、児童や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

(3) 「教科等横断的」な視点(解P158)

全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る。

指導計画の作成に当たっては、他教科等の内容の系統性や関連性を考慮する。例えば、国語科の学習内容が外国語活動及び外国語科等の学習に結び付くよう指導の時期を工夫すること、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫することなどが考えられる。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点(解P2)

必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしなが、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが重要である。

(5) 「道徳教育の充実」の視点(解P160)

学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、国語科と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う。また、国語科の年間指導計画の作成などに際して、道徳

教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。

(6) 弾力的な指導に関する事項（解P154、P155）

児童の発達段階や学習の状況に応じて、学習のねらいや児童の興味・関心を考えながら計画を立てる。必要に応じて、各学年の内容に基づきながらも、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年において程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導するようにする。

(7) 学校図書館などの活用に関する事項（解P165）

学校図書館は、児童の読書活動や児童への読書指導の場である「読書センター」、児童の学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」、児童や教職員の情報ニーズに対応したり児童の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。目的をもって計画的に利用し、その機能の活用を図るようにする。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本を選べるよう配慮する。

(8) 情報機器の活用（解P165）

情報化社会の進展を見据え、情報収集や情報発信の手段として、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成やプロジェクターによる提示など、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設ける。

(9) 〔知識及び技能〕に関する配慮事項（解P155、P161）

〔知識及び技能〕に示す事項は〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して行うことを基本とし、必要に応じて、特定の事項を取り上げて繰り返し指導したり、まとめて単元化して扱ったりすることもできる。また、短い時間を活用した指導を行う場合には、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」についてもバランスよく育成されるよう配慮する。

指導に当たっては、児童が、日常の言語活動の中にある言葉の特徴やきまりなどに気付くことや、学習したことを日常の話したり聞いたり書いたり読んだりする場面に生かすことを意識しながら学習できるようにする。

(10) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、書写に関する配慮事項（解P155、P156、P163、P164）

〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、〔知識及び技能〕の書写の指導においては、指導に相当する授業時数を下回らないように注意すること。

項目	学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
A 話すこと・聞くこと		年間35単位時間程度	年間30単位時間程度	年間25単位時間程度
B 書くこと		年間100単位時間程度	年間85単位時間程度	年間55単位時間程度
毛筆を使用する書写			第3学年以上 年間30単位時間程度	

また、「A話すこと・聞くこと」では、音声言語のための教材を活用し、指導の効果を高めるよう工夫する。さらに、「B書くこと」では、実際に文章を書く活動を多くする。

(11) 「読書」及び「C読むこと」に関する配慮事項（解P156、P157）

〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項及び〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導を通して、児童の読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにする。

また、国語科における読書の指導は、国語科以外の、学校の教育活動全体における読書の指導との密接な連携を図っていく必要がある。他教科等における読書の指導や学校図書館における指導、全校一斉の読書活動などとの関連を考慮した指導計画を作成する。

(12) 低学年における他教科や幼児教育との関連についての事項（解P157、P158）

他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領の言葉の獲得に関する領域「言葉」や、子育ての目安「3つのめばえ」に示されている幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をする。

(13) 教材についての配慮事項（解P166、P167）

教科及び各学年の目標、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材、話や文章の種類などを調和的に選定する。

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の指導の充実を図るため、言語活動が十分に行われるよう教材を偏りなく取り上げる。

第2 指導計画作成のための資料 (下線部は、これまでの解説に新たに加えられた主な内容である。)

1 目標及び学年の目標の系統表

(1) 小学校国語科の目標

※国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

ア 「言葉による見方・考え方を働かせ」とは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。

イ 「正確に理解」する資質・能力と、「適切に表現する資質・能力」とは、連続的かつ同時に機能するものである。

ウ (1)は、「知識及び技能」に関する目標を示したものである。

エ (2)は、「思考力、判断力、表現力等」に関する目標を示したものである。「伝え合う力を高め」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである。「思考力や想像力を養う」とは、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養うことである。

オ (3)は、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標を示したものである。なお、「言語感覚」とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。

(2) 学年の目標の系統表

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
知識及び技能	1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。	2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。
学びに向かう力、人間性等	3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 各学年の内容の系統表

※ 情報の扱い方に関する資質・能力の育成に向け、「情報の扱い方に関する事項」を新設した。

※ 「漢字」及び「書写」については、解説を参照する。

(1) [知識及び技能]の内容

①言葉の特徴や使い方に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
言葉の働き	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	
話し言葉と書き言葉	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ウ 長音、拗音(ようおん)、促音、撥音(はつおん)などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方 また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。

語彙	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
文や文章	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。	エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。
言葉遣い	キ 丁寧な言葉と普通な言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	
技法表現の			ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。
朗読、音読	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。	

②情報の扱いに関する事項（新設）

情報と情報の関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

③我が国の言語文化に関する事項

伝統的な言語文化	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。 イ 古典には様々な種類の作品があることを知る。
言葉の由来や変化		ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。
読書	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くこと。	オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。

※学習過程の明確化、「考えの形成」の重視として、これまでの学習指導要領に示されてきた学習過程を整理し、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けている。（解説「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」参照）

3 指導事項及び言語活動例

学習指導要領では〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域においてどのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示している。また、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示している。なお、「・」は具体的な言語活動の例を表す。

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
A 話すこと・ 聞くこと	指導事項	<p>【話題の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>【構成の検討、考えの形成】</p> <p>イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。</p> <p>【表現、共有】</p> <p>ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>【構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有】</p> <p>エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p> <p>【話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有】</p> <p>オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p>	<p>【話題の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>【構成の検討、考えの形成】</p> <p>イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。</p> <p>【表現、共有】</p> <p>ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。</p> <p>【構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有】</p> <p>エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。</p> <p>【話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有】</p> <p>オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。</p>	<p>【話題の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>【構成の検討、考えの形成】</p> <p>イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。</p> <p>【表現、共有】</p> <p>ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</p> <p>【構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有】</p> <p>エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。</p> <p>【話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有】</p> <p>オ 互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。</p>
	言語活動例	<p>ア（話したり聞いたりする活動）紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて感想を述べたりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵を見て気付いたことや思ったことを話す。 話し手を見て静かに行儀よく話を聞く。 話の大事なことをメモする。 事柄の順序を考えて発表する。 <p>イ（話し合う活動）尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達や教師に問いかけたり、質問に答えたりする。 	<p>ア（話したり聞いたりする活動）説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いてたりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図表や写真などの資料を活用して、自分の考えを発表する。 事実と意見を区別しながら話したり聞いたりする。 話の中心となることを聞きながらメモをする。 <p>イ（話したり聞いたりする活動）質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手の思いに沿った質問をする。 情報が正しく伝わるように、工夫して発表する。 <p>ウ（話し合う活動）互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 司会者、記録者などの役割を決めて話し合う。 立場をはっきりさせ、意見とその理由を明確にして話し合う。 よりよい話し合いの仕方について、考えを出し合う。 	<p>ア（話したり聞いたりする活動）意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容や構成を考えて説得力のあるスピーチをする。 話の構成に着目しスピーチメモのよいところを話し合う。 相手や目的を意識して工夫して話す。 自分との共通点と相違点を考えながら聞く。 <p>イ（話したり聞いたりする活動）インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞きたいことをはっきりさせて、インタビューをする。 聞き手が求めていることを考えて発表する。 <p>ウ（話し合う活動）それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的を意識しながら話題に沿って話し合う。 立場や主張を明確にしていろいろな形式で話し合う。（パネルディスカッション、討論会、ポスターセッション等）
B 書くこと	指導事項	<p>【題材の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>【構成の検討】</p> <p>イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。</p> <p>【考えの形成、記述】</p> <p>ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>【推敲】</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。</p> <p>【共有】</p> <p>オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。</p>	<p>【題材の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>【構成の検討】</p> <p>イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。</p> <p>【考えの形成、記述】</p> <p>ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。</p> <p>【推敲】</p> <p>エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。</p> <p>【共有】</p> <p>オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。</p>	<p>【題材の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>【構成の検討】</p> <p>イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。</p> <p>【考えの形成、記述】</p> <p>ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>【推敲】</p> <p>オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。</p> <p>【共有】</p> <p>カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。</p>

	言語活動例	<p>ア（説明的な文章を書く活動）身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の観察記録を書く。 ・身近なニュースを書く。 <p>イ（実用的な文章を書く活動）日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵日記をかく。 ・身近な人に手紙を書く。 ・行事や生活の感想を短い文章で書く。 <p>ウ（文学的な文章を書く活動）簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序を考えて簡単なお話を書く。 ・思ったことや感じたことを短い詩に書く。 	<p>ア（説明的な文章を書く活動）調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを整理して新聞を作る。 ・自分の考えとその理由を、始め・中・終わりははっきりさせて書く。 ・段落構成を工夫したり写真や資料をそえたりしてわかりやすい文章を書く。 <p>イ（実用的な文章を書く活動）行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや内容に気を付けて手紙を書く。 ・相手や目的を意識して、案内やお礼の文章を書く。 ・構成を考えながら手紙を書く。 <p>ウ（文学的な文章を書く活動）詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始め・中・終わりの組立てで物語を書く。 	<p>ア（説明的な文章を書く活動）事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落構成を工夫して活動報告書を書く。 ・目的や意図に応じて文章を引用して書く。 ・図表や写真などを用いてパンフレットや説明文を書く。 ・自分の考えを効果的に伝える工夫をして意見文や提案書を書く。 <p>イ（文学的な文章を書く活動）短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を選んで短歌や俳句をつくる。 <p>ウ（文学的な文章を書く活動）事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と思いや考えの書き表し方を工夫して随筆を書く。
	指導事項	<p>【構造と内容の把握（説明的な文章）】</p> <p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。</p> <p>【構造と内容の把握（文学的な文章）】</p> <p>イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</p> <p>【精査・解釈（説明的な文章）】</p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選り出すこと。</p> <p>【精査・解釈（文学的な文章）】</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>【考えの形成】</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</p> <p>【共有】</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</p>	<p>【構造と内容の把握（説明的な文章）】</p> <p>ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。</p> <p>【構造と内容の把握（文学的な文章）】</p> <p>イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</p> <p>【精査・解釈（説明的な文章）】</p> <p>ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。</p> <p>【精査・解釈（文学的な文章）】</p> <p>エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。</p> <p>【考えの形成】</p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。</p> <p>【共有】</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</p>	<p>【構造と内容の把握（説明的な文章）】</p> <p>ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。</p> <p>【構造と内容の把握（文学的な文章）】</p> <p>イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。</p> <p>【精査・解釈（説明的な文章）】</p> <p>ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。</p> <p>【精査・解釈（文学的な文章）】</p> <p>エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</p> <p>【考えの形成】</p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。</p> <p>【共有】</p> <p>カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。</p>
C	読むこと 言語活動例	<p>ア（説明的な文章を読む活動）事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで分かったことと自分の経験とを結び付けて感想を書く。 ・筆者の考えとそのわけをまとめる。 <p>イ（文学的な文章を読む活動）読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読発表会をする。 ・物語の読み聞かせを聞く。 ・音読劇や簡単な紙芝居、人形劇などをする。 <p>ウ（本などから情報を得て活用する活動）学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読んで分かったことや感想を発表する。 ・自分の好きな本を紹介する。 	<p>ア（説明的な文章を読む活動）記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」や「答え」を探しながら読む。 ・説明の中心となる言葉や文を見付けながら読む。 ・段落ごとに小見出しを付ける。 ・段落構成を図に表す。 ・文章を要約する。 <p>イ（文学的な文章を読む活動）詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や人物の気持ちが伝わるように音読する。 ・おもしろいと思うところを紹介し合う。 ・読んで感じたことを話し合う。 ・俳句などを読んで情景を想像する。 <p>ウ（本などから情報を得て活用する活動）学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内図や分類を手がかりに図書館で本を探す。 ・学習に関連する本を集めて比べたり必要な情報を選んで詳しく読んだりする。 ・本の内容を引用したり要約したりして紹介する。 	<p>ア（説明的な文章を読む活動）説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図を考えながら読む。 ・いくつかの文章を読んで思ったことや考えたことを書く。 ・文章を要約する。 <p>イ（文学的な文章を読む活動）詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の特色や優れた表現に着目しまとめる。 ・作者について調べたり他の作品を読んだりする。 ・場面の様子や人物の心情を想像しながら朗読する。 ・俳句や短歌などを読んで情景を想像する。 ・伝記を読んで自分の生き方について考える。 ・読んで感じたことや考えたことを話し合う。 <p>ウ（本などから情報を得て活用する活動）学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて文章の中から必要な場所を選んで読む。 ・紙面構成を確かめながら新聞を読む。 ・文章以外の資料（図表、絵、写真など）を読み取る。 ・帯やポップを作ったり推薦文を書いたりして本を推薦する。 ・読書について友達と話し合う。

※1 単位時間の指導計画作成においては、単元全体に位置付けた言語活動を意識すること。

4 年間指導計画例

年間指導計画の作成に当たっては、次の事項に留意する。

<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の年間授業時数を踏まえ、各領域の学習活動への時間配分を適切にし、偏りがないようにする。 ・「育成を目指す資質・能力」（解P3）が育まれるよう、意図的、計画的な学習活動が行われるようにする。 ・言語能力が螺旋的に高まるように繰り返し指導を入れ、高めていく計画にする。⇒は3・4学年の2年間で螺旋的に高まるように計画したことを示す。（学年内と学年を超えた系統を考える。） ・他教科との関連を図った指導計画にする。

○第3学年 国語科年間指導計画例 ※各月の○数字は、標準授業時数を表す。

月	単元(時間)	教材	目標(○)及び活動(・)	学習内容	評価規準	備考
通年	2、3年生の漢字	2年生漢字 3年生漢字	○2年生の漢字が書ける。文や文章中で使う習慣を身に付けることができる。 ○3年生の新出漢字のだいたいを書き、文章中で使うことができる。	○文章中での漢字の正しい使い方 ○正しい書き方と文章中での漢字の使い方	・第2学年配当の漢字を書いている。 ・第3学年配当の漢字を読んでいる。	・新出漢字は掲示して、他教科でも活用する。 【3(3)】
四月②	ことばのじゅんびうんどう [1時間] (A1時間)	「よく聞いて、じこしょうかい」	○相手によく分かるように話したり、友達の話をよく聞いたりすることができる。 ・自分の前に話した人の話を聞き、それを繰り返した後に自己紹介をする。	○自己紹介の仕方 ○話の聞き方	・話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。	・よい自己紹介の例を具体的に示すようにする。 【3(2)】
	詩を楽しもう [1時間] (C1時間)	「どきん」	○擬声語、擬態語、文末表現の響きやリズムに親しみ、声に調子をつけて音読したり暗唱したりすることができる。 ・グループや全体で詩を音読したり、暗唱したりする。	○擬声語、擬態語 ○声に調子を付けた音読の仕方	・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	・友達と工夫について話し合いながら音読できるようにする。 【3(2)】
	場面のようなすを思いうかべ、音読しよう [9時間] (C8時間) (知1時間)	「きつつきの商売」 (文学的文章)	○登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えて音読することができる。 ○言葉には、人物の考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。 ・グループごとに、場面の様子が伝わるような音読の仕方を考え、音読発表会をする。	○声の大きさ・速さや強弱、間の取り方 ○場面の移り変わり ○登場人物の行動や気持ちを意識した読み方	・登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えている。 ・言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	・音読の工夫の観点を明確に示すことで、グループごとの話し合いが充実するようにする。 【3(2)】
	国語辞典のつかい方 [2時間] (知2時間)	「国語辞典のつかい方」	○国語辞典の使い方を理解し、必要に応じて使い、語彙を豊かにすることができる。 ・国語辞典を使って、グループで言葉の意味を調べたり、確かめ合ったりする。	○国語辞典の言葉の掲載順 ○国語辞典の使い方	・辞典の使い方を理解して言葉を調べている。	・必要に応じて教師が一緒に国語辞典を引く。 【3(1)】
	毛筆のきほんを知ろう (書写) (2時間)		○毛筆で書くときの姿勢を理解することができる。	○書くときの姿勢	・毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書いている。	・書写部提案の片付け方を徹底する。 【3(5)】
五月②	話の中心に気をつけて聞き、しつもんをしたり、かんそうを言ったりしよう [5時間] (A5時間)	「よい聞き手になろう」	○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、聞き手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。 ・学校や家での出来事の中から友達に知らせたいことについて考え、グループごとに伝え合い、質問をしたり感想を言い合ったりする。	○話の中心に気をつけて聞くこと ○聞き手に応じた言葉遣い ○指示語の使い方	・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。	・友達の話をしつかりと聞き、感想や意見など伝えようとする態度を育む。 【3(5)】
	ざいりょうを集めて、ほうこくする文章を書こう [14時間] (B13時間) (知1時間)	「気になる記号」	○相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、文章を書くことができる。 ○書いた文章を読み合い、意見や感想を伝え合うことができる。 ○改行の仕方を理解して文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。 ・身の回りの記号について調べ、意味や使われ方について報告する文章を書き、学級で発表をしたり聞いたりする。	○報告文の書き方 ○段落の分け方 ○必要な事柄を調べること ○書く相手、目的を意識した情報整理の仕方 ○改行の仕方 ○句読点の適切な打ち方	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ・改行の仕方を理解して文や文章の中で使い、句読点を適切に打っている。	・他教科での学習や、夏季休業中の課題などで、報告書を作成する機会を設定するようにする。 【3(3)】 ・必要に応じて公共施設の方に報告文を読んでもらうなどする。 【3(4)】
十月②	場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう [8時間] (C7時間) (知1時間)	「ちいちゃんのかげおくり」	○登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。 ○文章を読んで、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いに気付くことができる。 ・「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、一番心に残った場面について、グループや全体で発表し合い共有する。	○登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて叙述を基に想像して読むこと ○本文を引用した感想の書き方 ○感想を表す言葉	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。 ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	・全文掲示に書き込みをし、読み取ったことを友達と共有することができるようにする。 【3(2)】

- ・単元（時間）の項目で、[○時間]はその単元の総時数を表す。
- ・(A○時間)は「A話すこと・聞くこと」に充てる時数を、(B○時間)は「B書くこと」に充てる時数を、(C○時間)は「C読むこと」に充てる時数を表す。(知○時間)は「知識及び技能」に充てる時数を表す。
- ・第3学年と第4学年の違いをアンダーラインで表示した。
- ・「第1指導計画の作成 3指導計画作成に当たっての留意すべき事項」については、次のように表示した。
3(1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点 3(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点
3(3)「教科等横断的」な視点 3(4)「社会に開かれた教育課程」の視点 3(5)「道徳教育の充実」の視点

○ 第4学年 国語科年間指導計画例 ※各月の○数字は、標準授業時数を表す。

月	単元（時間）	教材	目標（○）及び活動（・）	学習内容	評価規準	備考
通年	3、4年生の漢字	3年生漢字 4年生漢字	○3年生の漢字が書ける。文や文章中で使う習慣を身に付けることができる。 ○4年生の新出漢字のだいたいを書き、文章中で使うことができる。	○文章中での漢字の正しい使い方 ○正しい書き方と文章中での漢字の使い方	・第3学年配当の漢字を書いている。 ・第4学年配当の漢字を読んでいる。	・新出漢字は掲示して、他教科でも活用する。 【3(3)】
四月 ㊸	言葉のじゅんぴ運動 [1時間] (A1時間)	「ばらばら言葉を開き取るう」	○相手に分かるようにはっきり話したり、友達の話をよく聞いたりすることができる。 ・グループごとに「ばらばら言葉」を発表し合い、言葉を当てるクイズをする。	○言葉に強弱をつけて話すこと ○話の聞き方	・目的や進め方を確認し互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。	・例示し、取り組み方を明確に示すようにする。 【3(1)】
	詩を楽しもう [1時間] (C1時間)	「春のうた」	○擬声語、擬態語、文末表現の響きやリズムに親しみ、声に調子をつけて音読したり暗唱したりすることができる。 ・グループや全体で詩を音読したり、暗唱したりする。	○擬声語、擬態語 ○声に調子をつけた音読の仕方	・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	・自然環境の保全に寄与する態度育成も意識する。 【3(5)】
	登場人物の人がらをとらえ、話し合おう [8時間] (C7時間) (知1時間)	「白いぼうし」 (文学的文章)	○登場人物の行動や気持ちなどについて物語全体を見通して、複数の叙述を基に捉えることができる。 ○主語と述語の関係や修飾や被修飾の関係など、文の構成について初歩的な理解をすることができる。 ・登場人物の人物像をまとめ、まとめたことをグループや全体で発表し合う。	○声の大きさ・速さや強弱、間の取り方 ○読み取った内容の交流の仕方 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、物語全体を見通して、複数の叙述を基に捉えること	・登場人物の行動や気持ちなどについて物語全体を見通して、複数の叙述を基に捉えている。 ・一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	・話し合いの際には付箋やICT機器を活用し、互いの考えを話し合わせるようにする。 【3(2)】
	漢字辞典の使い方 [2時間] (知2時間)	「漢字辞典の使い方」	○漢字の部首か画数、索引を基に、漢字辞典の使い方を理解し、使うことができる。 ・漢字辞典を使って、グループで漢字の読み方などを調べたり、確かめ合ったりする。	○漢字辞典の言葉の掲載順 ○漢字辞典の使い方	・辞典の使い方を理解して漢字を調べている。	・必要に応じて教師と一緒に辞典を引く。 【3(1)】

	筆順と字形の関係を考えよう (書写) (2時間)	「筆順と字形」	○筆順と字形の関係を理解して書くことができる。	○筆順によって画の長さが変わる	・文字の組立て方を理解し、形を整えて書いている。	・掲示物等の題字に毛筆を活用する。 【3(3)】
五月 ㊸	話し合いのしかたについて考えよう [4時間] (A4時間)	「よりよい話し合いをしよう」	○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら、互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合い、考えをまとめることができる。 ・学級で議題を決め、自分の立場を明らかにしながら議題に沿って話し合いをする。	○立場に応じた言葉遣い ○表情や声による受け手の印象のちが ○考えのまとめ方	・目的や進め方を確認し司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。	・友達の見え方の違いを認め合う態度を奨励する。 【3(5)】
	調べたことを整理して書こう [13時間] (B12時間) (知1時間)	「新聞を作ろう」	○相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にして文章を書くことができる。 ○書いた文章を読み合い、意見や感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。 ○敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。 ・身の回りのことから伝えたいことを見付け友達や保護者に報告する新聞を作成する。	○伝えたいことを明確にした報告文の書き方 ○取材の方法 ○書く相手、目的を意識した情報の整理の仕方 ○推敲の観点 ○自分の文章のよいところの見付け方	・目的を意識して日常生活の中から話題を決め、材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。 ・敬体と常体との違いに注意しながら書いている。	・社会科や理科等の他教科の学習でも新聞を作成する機会を設け、学習したことを生かせるようにする。 【3(3)】
十月 ㊸	読んで考えたことを話し合おう [12時間] (C11時間) (知1時間)	「ごんぎつね」	○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読むことができる。 ○文章を読んで、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いに気づき、友達の感じ方のよさに気付くことができる。 ・特に心に残ったところや、自分と比べることで感じたことなどをグループや学級で発表し合う。	○登場人物の気持ちの変化や性格、情景を、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読むこと ○叙述や経験と関連させた感想の交流の仕方 ○本文を引用した感想の書き方 ○感想を表す言葉	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいる。 ・文章を読んで感じたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	・「感想を伝える言葉」を具体的に示し、それらを使って感想をまとめ、交流できるようにする。 【3(2)】 ・地域の読み聞かせボランティアに音読を聞いてもらう。 【3(4)】

5 領域ごとの年間指導計画例

○「A 話すこと・聞くこと」の年間指導計画例（第2学年）

- ・第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度を配当すること。
- ・他教科等の学習や学校の教育活動全体の中で、学習したことを使う機会がもてるよう、年間指導計画に意図的、計画的に位置付けること。
- ・各学校の創意工夫により、ICT機器を活用するなど音声言語のための教材を活用し、指導の効果を高めるよう工夫すること。

低学年の言語活動例 ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。（話したり聞いたりする活動）
 イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。（話し合う活動）
 ※これらの言語活動は例示であるため、これらの全てを行わなければならないものではなく、これ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

※目標の〔知技〕は〔知識及び技能〕の指導事項、〔思・判・表〕Aは〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」の指導事項を表す。

月	単元 (時間)	目標 ◎主たる目標、○主目標に準じる目標 ・要素として含まれる項目	学習活動 下線部は特に言語活動に関わること、【 】は言語活動の種類、 ◇は相手意識に関わることを表す	学習内容	評価規準
六月	だいたいなことをおとさずに話したり聞いたりしよう (7時間)	◎話の内容に興味をもち、大事なことを聞き落さないようにしながら、聞くことができる。 ○必要な事柄を選び、声の大きさや速さに注意して、話すことができる。 ○アクセントによる語の意味の違いなどに気付くことができる。 〔知技〕(1)イ(2)ア 〔思・判・表〕A(1)イウ(2)ア	・帰りの会のお知らせなどを聞き落として困った経験などを想起する。 ・どのようなことを聞き落とすと困るのかについて出し合う。 ・聞き落としてはいけないことを整理し、それらが話す側にとっても大切な事柄であることを意識してメモを取る。 ・二人組になって、大事なところを落とさずに話したり、聞いたりすることができたかを相互評価する。 ・音声CDを聞いたり、話を聞いたりしてメモを取り、内容について確かめ合う。【記録】 ・学習を振り返る。 ◇クラスの友達に伝える。	○話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えること ○自分が聞きたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えること ○相手に内容を正確に伝えるための、姿勢や口形、発声や発音の仕方	・話の内容に興味をもち、大事なことを聞き落さないようにしながら、聞いている。 ・必要な事柄を選び、声の大きさや速さに注意して、話している。 ・アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。
九月	つたえたいことをはっぴょうしよう (5時間)	◎伝えたいことについて、必要な材料を集め、話す順序を考えることができる。 ○丁寧な言葉遣いで話すことができる。 ・一音一音を、はっきりと発音し、相手に届く音量で話すことができる。 〔知技〕(1)アイキ(2)ア 〔思・判・表〕A(1)アイ(2)ア	・1学期の学習や夏休みの経験などを想起し、伝えたいものを書き出す。 ・書き出したものの中から発表したいものを選び、発表するために必要な事柄を考え、カードに書く。 ・みんなに聞こえる声で、はっきりと話すことを意識して練習をする。 ・「です」「ます」を使って、丁寧な言葉遣いで話す。 ・伝えたいものを発表する会を行う。【説明】 (紙や発表ボードに書いたものや、ICT機器を使った発表などの表現方法の選択) ・学習を振り返る。 ◇家の人に伝える。	○身近なことや経験したことなどから話題を決めること ○伝え合うために必要な事柄の選び方 ○相手に伝わるような、話す事柄の順序 ○「です」「ます」等の丁寧な言葉の使い方	・伝えたいものについて、必要な材料を集め、話す順序を考えて話している。 ・丁寧な言葉遣いで話している。 ・一音一音を、はっきりと発音し、相手に届く音量で話している。
十一月	組み立てを考えてはっぴょうしよう (14時間)	◎自分が考えた道具について、相手に分かるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さに気を付けて、話すことができる。 ・大事なことを聞き落とさないように気を付けながら友達の話を聞き、感想を述べたり、質問したりすることができる。 ・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことができる。 〔知技〕(1)キ(2)ア 〔思・判・表〕A(1)イウエ(2)ア	・テーマに関すること考えたことを、絵や言葉で書く。 ・考えた道具の形や色、働き、あったらいいと思うわけなどについて、ペアや3人組になり話し手の伝えたいことを確認したり、聞き手が興味をもったことについて話し手に尋ねたりする。 ・分かりやすく発表するために気を付けることについて考えを出し合う。 ・よいメモの例を見て、何が、どのように書かれているかを整理する。 ・「中」に書く事柄をカードから選んでメモを書く。 ・「始め」と「終わり」に話すことを決め、メモを整理し、声に出して読み、構成を確かめる。 ・二人組になって発表の練習をし、構成や声の出し方などについて感想を述べ合う。 ・発表会を開き、互いに質問したり感想を伝え合ったりする。【説明】 ・学習を振り返る。 ◇学年の友達に伝える。	○伝えたい事柄や相手に応じた声の大きさや速さ ○話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えること ○自分が聞きたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えること	・自分が考えた道具について、相手に分かるように、話す事柄の順序を考えて話している。 ・大事なことを聞き落とさないように気を付けながら友達の話を聞き、感想を述べたり、質問したりしている。 ・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合っている。
二月	話し合ってみよう (8時間)	◎互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。 ○考えを伝える言葉の働きを理解することができる。 〔知技〕(1)アオ 〔思・判・表〕A(1)オ(2)イ	・これまで話し合いのときに気を付けてきたことを振り返り、ポイントをまとめる。 ・「6年生を送る会」や学級活動などに関連させて話題を決め、話し合う。 ・互いに認め合う雰囲気を作りながら、司会を決めて話し合う。【話し合い】 ・話し合いの様子をグループごとに見合ったり、評価したりする。 ・学習を振り返る。 ◇6年生等に伝える。	○話の内容を理解した上で話題に沿って話すこと ○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと ○増やした語句を話の中で使い、語彙を豊かにすること	・互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合っている。 ・考えを伝える言葉の働きに気付いている。

○「B 書くこと」の年間指導計画例（第3学年）

- ・「B 書くこと」の第3学年及び第4学年の配当時数を年間85単位時間として作成する例である。
- ・「B 書くこと」の言語活動例を中心に、「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)情報の扱い方に関する事項」、「(3)我が国の言語文化に関する事項」を意識して配置する。

指導事項	目標	主な学習活動	主な学習内容	月	4	5	6	7	11	12	2					
「書くこと」の学習過程	【B 書くことの言語活動例】 ア 説明的な文章を書く活動：報告文、説明文等 イ 実用的な文章を書く活動：案内状、お礼文等 ウ 文学的な文章を書く活動：詩、物語等 【記号の見方】 ㊦ 学校図書館の利用 ㊧ 他教科との関連 ㊨ 伝統的な言語文化 ㊩ 道徳との関連 【知識及び技能】 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉の働き ウ 話し言葉と書き言葉 オ 語彙 カ 文や文章 キ 言葉遣い (2) 情報の扱い方に関する事項 ア 情報と情報との関係 イ 情報の整理 (3) 我が国の言語文化に関する事項 ア・イ 伝統的な言語文化 オ 読書	教材	きつつきの商売 春の楽しみ 言葉で遊ぼう／こまを楽しむ 気になる記号 「ありがとう」をつたえよう	時数	1	2	1	14	5	8	8	2	14			
				言語活動例	ウ	ウ	ア	ア	イ	ア	ウ	ア	ア	ア		
				記号				㊦	㊧	㊨	㊩	㊦	㊧	㊨	㊩	
				知識及び技能	(1)ア	(1)オ	(1)ア	(1)ウ	(1)ア	(2)イ	(2)イ	(2)ア	(1)オ	(1)オ	(1)オ	(2)イ
					(2)イ	(2)イ	(2)ア	(1)キ	(1)キ	(3)ア	(2)ア	(2)ア	(2)ア	(2)ア	(3)ア	(2)イ
題材の設定・情報の収集・内容の検討	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	・書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。	・報告文や紹介文を書く。	○題材の選択 ・経験や想像したことから ○材料の収集 ・題材に必要な事柄 ○材料の整理 ・比較・分類	◇	○		◎				◎	◎			
構成の検討	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	・段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして書くことができる。	・説明文や物語を書く。	○段落 ・形式段落・意味段落 ○段落相互の関係 ・考えと理由・考えと事例 ・事例と事例 ○文章構成 ・冒頭部・展開部・終結部				○	○	◎						
考えの形成／記述	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことができる。	・説明文や手紙を書く。	○理由の書き方 ・なぜなら～その理由は～ ・～ためである ○事例の書き方 ・例えば～ ・事例を挙げると ・～などがそれに当たる ○役割に応じた語句 ・主語、述語、修飾語になる語句			◇		◎	◎	○		○			
推敲	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりすることができる。	・書いた文章を見直す。	○表記 ・主述、修飾被修飾の関係 ・長音、拗音、促音、撥音 ・助詞 ○文末表現 ・敬体と常体・断定と推量 ・疑問						◇	○		◎			
共有	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	・感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。	・仕上がった文章を読み合う。	○感想や意見の伝え方 ○文章のよさの見付け方	◇			◎			◇					

(◎重点的に指導する事項 ○関連的に指導する事項 ◇既習事項として確認や復習をする事項)

○「C 読むこと」の年間指導計画作成例（第6学年）

- ・児童の読書意欲を高め、日常生活における読書活動につながるよう配慮する。
- ・他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を図る。

指導事項	目標	主な学習活動	主な学習内容	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	
				教材	風景 純銀もさく／紙風船	薫風／「迷う」	森林のはたらきと健康	川とノリオ	イナゴ	きつねの窓	ぼくの世界、きみの世界	私の大切な一冊	伊能忠敬	
時数	2	5	7	8	2	6	7	6	11					
言語活動例	イ	ア	ア・ウ	イ・ウ	イ	イ・ウ	ア・ウ	イ・ウ	イ・ウ					
記号	区伝	区	区他	区他道	区伝	区道	区	区他	区他道					
知識及び技能	(1)オカケ(3)オ	(1)オカ(3)オ	(1)オカ(2)アイ(3)オ	(1)オカケ(3)オ	(1)オケ(3)ア	(1)オカケ(3)オ	(1)オカ(2)アイ(3)オ	(1)ク(2)アイ(3)オ	(1)オカ(2)アイ(3)オ					
構造と内容の把握	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。	・事実と感想、意見などとの関係を区別し、要旨を捉えて読む。	・要旨の把握 ・文章全体の構成 ・事実と感想、意見との関係		◎	◎				◎	◇		
	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。	・登場人物の相互関係や心情などを捉えて読む。	・登場人物の相互関係や心情のとらえ方 ・描写の効果	○				◎	◇	◎		○	
精査・解釈	ウ 目的に応じて、文章と表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。	・目的に応じて、文章と表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。	・文章と表や図などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしながら読む。	・目的に応じた情報の取捨選択、整理、再構成 ・論の進め方 ・文章と図表などを結び付けて読むこと			◎	◎				◎		
	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。	・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら読む。	・人物像や物語などの全体像の把握 ・表現の効果の理解	◎			○	○	◎				◎
考えの形成	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。	・自分の考えのまとめ方	○	○	◎	○	◇	○	◎	◎	◇	
共有	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。	・文章を読んでまとめた意見や感想を伝え合い自分の考えを広げる。	・意見や感想を共有し、自分の考えを広げること	○	○	◎	○	◇	○	◎	○	◇	

(◎重点的に指導する事項 ○関連的に指導する事項 ◇既習事項として確認や復習をする事項)

○書写年間指導計画例（第4学年）

- ・文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮する。
- ・硬筆を使用する書写の指導は各学年で行う。
- ・毛筆を使用する書写の指導は、第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度とする。
- ・毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう、硬筆の指導と関連させて行う。

【指導事項】

- (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。
- (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
- (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

月	単元・教材・時間	指導事項	目標	学習活動	学習内容	評価規準	配慮事項
七月	点画の接し方 交わり方 「作文」 (3時間)	(ア) (ウ)	・点画の接し方や交わる位置について理解し、字形を整えて書くことができる。	・点画の接し方や交わる位置について理解して書く。 ・点画の接し方や交わる位置に気を付けて、字形を整えて書く。 ・点画の接し方や交わる位置を確かめて硬筆で書く。	・点画の接し方 ・点画の交わり方	・点画の接し方や交わる位置について理解し、字形を整えて書いている。	・日常でも、文字の点画の接し方や交わる位置に気を付けて、字形を整えて書けるようにする。
九月	ひらがなの筆使い 「はす」 (3時間)	(ウ)	・「結び」の筆使いを理解し、筆使いや形の違いに気を付けて書くことができる。	・「は」と「す」の「結び」の筆使いや形はどう違うのかを理解して書く。 ・「結び」の筆使いや形に気を付けて、字形を整えて書く。 ・「結び」のある字を見つけ、硬筆で書く。	・「結び」の筆使いや形の違い ・点画のつながり方 ・点画の交わり方	・「結び」の筆使いを理解し、筆使いや形の違いに気を付けて書いている。	・平仮名と漢字の違いを意識して、日常でも文字を書けるようにする。
十月	文字の組立て方 「林」 (3時間)	(ア)	・「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化を理解し、組立て方に気を付けて、字形を整えて書くことができる。	・「へん」と「つくり」の書き方と組立て方について理解して書く。 ・「へん」と「つくり」の幅のとり方に気を付けて書く。 ・左右の組立て方の文字を見つけて、硬筆で書く。	・「へん」と「つくり」の幅の違い ・点画の形の変化 ・「へん」と「つくり」の組立て方	・「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化を理解し、組立て方に気を付けて、字形を整えて書いている。	・本の紹介カードを、「へん」と「つくり」の組立て方に気を付けて、字形を整えて書けるようにする。

【入門期の指導として留意したい事項】

- 「姿勢」は、文字を書くときの体の構えのことである。正しい姿勢になるには、背筋を伸ばした状態で体を安定させ、書く位置と目の距離を適度に取り、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにする。
- 「筆記具」は、低学年では主に鉛筆やフェルトペン等を使用する。
- 「持ち方を正しく」するには、人差し指と親指と中指の位置、手首の状態や鉛筆等の軸の角度などを適切にする。
- 「丁寧に書く」には、点画の始筆から送筆、さらに終筆（とめ、はね、はらい）までを確実に書き、筆順に従って点画を積み重ねながら文字の形を形成していく過程を意識して書く。
- 「文字の形」は、点画の積み重ねによって形成される文字のおおよその形（概形）のことである。文字のおおよその形を把握した上で書くようにさせる。
- 「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導では、適切に運筆する能力の向上につながるよう水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を工夫する。